

# 漁況予報 いわし

## 第124号

2004年7～8月漁期  
(2004年7月 日発行)

### ＝ 概況 ＝

#### 【まいわし】

主要定置網における5月のマイワシ総漁獲量は、99トンで前年同期の21トンを、6月も300トンで同17トンを、いずれも大きく上回る漁獲量となりました。

各定置網とも、5月は中羽マイワシ(1歳魚 2003年級群：14～18cm)主体に小羽マイワシ(0歳魚 2004年級群：9～12cm)混じり、6月は中羽マイワシ(0歳魚 2004年級群：12～15cm)主体の魚種組成となりました。

佐島地区のまき網は、5～6月を通じて餌イワシとして、カタクチイワシの混じりでヒラゴを漁獲しました。

前号でお知らせしたヒラゴは、6月には体長12cmを超えて中羽マイワシへと成長してきており、これら幼魚は予想以上に多く湾内にいるようです。今後、年内いっぱい相模湾に留まりますので、引き続き漁獲が期待できるでしょう。

#### 【かたくちいわし】

主要定置網における5月のカタクチイワシ総水揚げ量は、670トンで昨年同期(570トン)を少し上回りました。6月は520トンで同790トンを少し下回りましたが、2ヶ月とも依然として高水準の漁獲レベルとなりました。魚体は2ヶ月とも10-11cm台の小型成魚が主体でした。

佐島地区のまき網は、2ヶ月を通じてカタクチイワシ主体での漁獲となりましたが、南風の吹く日が多く、時化で出漁できない日が漁期間の半分にあたる1ヶ月近くもあったため、予想よりは少な目の漁獲量に留まりました。

#### 【しらす】

解禁以来、厳しい漁模様が続き相模湾のシラス漁ですが、5月に入っても一向に好転の兆しは見えず、0-30kg/統/日の漁獲水準が続きました。船によってはシラス漁を休み、サバ・カツオ釣りや刺し網漁で凌ぐ船も出てきました。6月になっても状況は全く変わりませんでした。

このように今年の春漁は、不漁だった過去2年をも大幅に下回る、過去最低の漁獲水準となってしまいました。原因は、前号で触れましたように黒潮の流型に拠るところが大きいと考えています。

なお、これからの夏シラスは、相模湾内で生まれたものが中心になってきます。5月以降、東京湾・相模湾には非常に多くのカタクチイワシ親魚が来遊していますし、定線観測による調査でも、カタクチイワシ卵が非常に多く採集されています。このことから、7月以降は、春漁と比べ多くの漁獲が見込めるでしょう。

### ＝ 予報 ＝

#### まいわし

今漁期は、中羽イワシ(2004年級群)が漁獲の主体となるでしょう。定置網とともに、まき網でも餌イワシとして漁獲があると思われます。今漁期の水揚げ量は、約180トンと予測されます。

\*縦軸：主要定置網+まき網の水揚げ量

#### かたくちいわし

今漁期は、小型成魚が漁獲の主体となります。今漁期の漁獲量は、約1190トンと予測されます。

#### しらす

今漁期は、5～6月生まれのカタクチシラスが漁獲の主体となります。今漁期のシラスは相模湾内で生まれたものが中心になります。親魚来遊量、産卵量ともに非常に良好です。今漁期の漁獲量は、カタクチシラス主体で約135トンと予測されます。

過去5年の7・8月漁期の漁獲量と今漁期の予測量

